414
A2656

第一条

凡ソ官吏ハ其職務ヲ施行スルニ當リ有心故造法律ヲ犯シ若クハ不注意又ハ懈怠ノ過失アリ若クハ權限ヲ侵スヤハ身其責ニ任スベシ

第二条

右ノ場合ニ於テハ第一官ニ對シ第二其損害ヲ蒙タル人民ニ對シ賠償ノ責ヲ負フ可シ

第三条

前條ハ該官吏ノ犯罪ヲ治ムル刑事ノ處分ト及官吏懲戒令ト相混セス

第四條

懲戒令ハ本屬長官ノ處分ニ屬スルヲ除ク外官吏ニ對スル告訴ハ民事ト刑事トヲ論セス都テ司法処分ニ依ルヘシ

大正十一年一
大隈侯爵邸

但法律ニ於テ特ニ行政處分ニ帰シタル事件ハ此例ニ在ラズ

第五條

凡ソ官吏ノ職務ヲ施行スルニ就キ損害ヲ與ヘラレタル者ハ司法官ニ告訴スルノ前ニ先ツ其本屬官廳ニ上願スルヿヲ得而メ其官廳ハ其権内ニ在テ願人ノ為ニ申理シ其官吏ヲメ當然ノ義務ヲ盡サシムルヿヲ得但シ法律ニ於テ特ニ行政処分ニ帰シタル事件ヲ除ク外其官廳ニ於テ司法処分ノ権内ニ渉ルヿヲ得ス

第六条

前条ノ場合ニ於テ本屬官廳ハ訴官吏ノ所為ヲ審査シ其正當ト認定シタルトキハ願状ヲ却下シ之ヲ処分シナスモニ及ハス而メ被害人ハ法律ニ於テ特ニ行政處分ニ帰シタル事件ヲ除ク外仍ホ司法官ニ告訴スルヿヲ得

第七条

屬官本屬長官ノ命令ヲ以テ施行セシ事件ハ賠償ノ責ニ任セス然レトモ其事件法律ニ禁止ノ明文アル者ニ係ルトキハ長官ノ命令ヲ以テ施行セシ者ト並ヒ仍ホ賠償ノ責ヲ負フベシ

第八条

若シ長官ノ命令ヲ以テ施行シタル事件訴官吏不注意ヲ以テ法律ノ禁止タルヿヲ知ラスノ施行セシトキハ被害者ニ對スル賠償ノ責ヲ免ルヽヿナシト雖モ訴事件ノ為メニ長官ニ對メ吏ニ辨償ヲ求ムルヿヲ得

第九条

官吏自己固有ノ職掌又ハ特ニ其長官ヨリ委任ヲ受タル職務專ラ其責ニ任スヘキ者ニ就テハ其長官ヨリ下付シタル命令ヲ除ク外質問ノ答議又ハ稟請ノ指令ヲ以テ責ヲ逃レントスルヿヲ得ス

第十条

屬官本屬長官ヨリ受タル命令ノ區域ヲ踰越シタル時ハ其踰越ノ部分ニ對シ賠償ノ責ヲ負フヘシ

第十一条

長官又ハ其他監督ノ任ニ當ル者官吏ノ違法ヲ制止シ得ヘキ場合ニ当リ情ヲ知テ之ヲ制止セサル者ハ命令ト等シク其責ヲ負フヘシ

第十二条

法律ニ於テ禁止シタル事件ノ施行ヲ命令シタル時ハ本屬長官ニ限ラス其官吏ノ同列タリシ其命ヲ為シタル者ハ命ヲ行フタル者ニ先チ主トシテ賠償ノ責ニ當ルヘシ

第十三条

長官ノ不注意ニ依リ監督ヲ怠リ屬官ヲシテ失誤アルニ至ラシメタル時ハ官民ニ對スルヲ論セス長官モ亦賠償ノ責ヲ負フヘシ

第十四条

凡ソ官吏ノ相續人ハ其前代ノ賠償ニ任スヘキヿ他ノ負債ニ於ケルト全シ

第十五条

已ニ退職セル官吏ノ在職中ニ処行セシ事件ニ付テハ其人又ハ相續人ニ對シ要償ノ訴ヲナスヿヲ得

第十六条

官吏ニ非スメ間接ニ官務ヲ取扱ヒシ者ハ亦官吏ニ准ス
ヘシ

第十七条

失誤ノ主名ヲ得ス賠償適當ノ方法ヲ得サル片ハ同僚賠
償法ヲ用ユヘシ

仝僚衆員賠償ノ責ニ任スルニハ其僚局ニ於テ特ニ設ケタル規則
アルヲ除ク外各個現行ノ者ニ其責ヲ負ハシム其方法下ノ数条ノ如シ

第十八条

此時ニ於テ要償ノ訴ハ其失誤ヲ生セシ片現在セシ仝員
ニ對シテ之ヲ為スモノトス

第十九条

左項ニ係ル者ハ其責ヲ受ク可ラス

一発言ノ擁ナキ者

一不参又ハ病気ヲ以テ不在ノ者

一衆員ノ処置ヲ否トシ其否議ノ確証アル者

第二十条

前条ニ掲クル者ヲ除ク外有心故造又ハ大ナル失誤ニ因
テ損害ヲ起セシ片ハ主従ヲ論セス同僚各員ヲメ連帯シ
テ賠償セシム其他不用意ノ細小失誤ハ衆員各其相当ノ
部分ヲ以テ分割メ責ニ任スヘシ

第廿一条

一員又ハ数員同僚ノ決議ニ相違セル命令督ヲ叙記シ又
ハ職外ノ事ヲ為シ又ハ怠惰ノ故ヲ以テ失誤ヲ起セシ片
ハ其本人主トシテ之ヲ賠償スヘシ但シ職務上監督ノ任
アル者ハ亦其責ヲ負フヘシ

第廿二条

私約ヲ以テ事務ヲ分掌シ章程ニ於テ分課ノ命ヲ得ザル者ハ其義務ヲ療クルト異ナルヿナシ然シル其内專ラ失誤ノ責ヲ負フヿ可キ諸員ニ對シテ他ノ諸員ヨリ之ヲ訴フルヿヲ得